

音楽学習学会

第13回研究発表会プログラム

2017年8月5日

於：埼玉大学

目次

全体スケジュール	2
全体会概要（講演・鼎談）	3
総会議案	会員のみご出席ください
研究発表プログラム	4
研究発表要旨集	当日受付にてお受け取りください

埼玉大学 会場へのアクセス

埼玉大学へは

① JR 京浜東北線「北浦和」下車

西口バスのりばより「埼玉大学」行きに乗車 終点「埼玉大学」で下車
*バス停は、大学構内正門ひろばにあります。

② JR 埼京線「南与野」下車

西口バスのりば（「志木駅・北朝霞」行き）に乗車、「埼玉大学」で下車
*このバス停は、バス便が少ないので、次もご利用ください。

南与野駅から北へ200メートルの場所に「南与野駅北口」というバス停があります。
ここには「埼玉大学」行きの多くのバス便があります。

③ タクシー利用

南与野駅西口よりタクシーで約10~15分。約1000円。

会場へは（学内）

埼玉大学終点バス停前のメインの通りを直進120メートル。
けやき並木に沿ってあるいてください。

教育学部A棟があります。会場案内看板をご参照ください。

日 程

9:30	10:00	12:00	13:20	14:00	16:30
受付	全体会	昼 食	総 会	研 究 発 表	

全体会（講演と鼎談）

214教室

テーマ：新学習指導要領を読み解く

10:00～11:00

講演 音楽科教育のこれから -新学習指導要領の趣旨を踏まえて-

新しい学習指導要領が示されました。副島先生より、平成29年3月31日告示の新学習指導要領の趣旨、改訂のポイントを踏まえながら、これからの音楽科教育の方向性についてお話していただきます。

講演者 副島和久（そえじまかずひさ）先生

講演者プロフィール

公立中学校2校の勤務を経て、佐賀大学教育学部附属中学校に勤務、平成14年から同校で研究主任。

平成18年から佐賀県教育センターに勤務、同センターにて研究調査担当係長を経て、平成25年から佐賀県唐津市加唐中学校に教頭として勤務。平成27年から佐賀県教育センターに研究課長として現在に至る。文部科学省では中教審芸術ワーキンググループ、これまでの学習指導要領改訂に深く関わった。

11:10～12:00

鼎談 新学習指導要領がねらうもの

副島和久先生、城佳世先生（九州女子大学准教授）

山中文先生（椛山女学園大学教授）

司会 八木正一先生（聖徳大学教授）

学習指導要領が改訂されると、「この文言はどう理解したらよいのか」「このような内容でどのような教育成果を狙っているのか」「音楽的活動からかい離していくのでは」等々、様々な声があがります。鼎談では、小中学校教員勤務経験の長い城先生、音楽科教育の変遷について研究してきた山中先生と副島先生で、フロアからの質問を受けながら新学習指導要領で不明な点、新学習指導要領が音楽科教育に何を求めているのか等を、議論していただきます。

登壇者プロフィール

城佳世（じょうかよ）先生

福岡教育大学大学院修了。福岡県飯塚市の公立小中学校教諭を経て現職。身体表現、ICT活用、日本民謡に関する実践的な研究に取り組んでいる。

山中文（やまなかあや）先生

愛知教育大学大学院修了、関西学院大学大学院教育学研究科にて学位取得。博士（教育学）。『音楽科における教育内容論の成立と展開に関する研究』（風間書房）他、音楽の授業づくりに関する著書多数。高知大学教育学部教授を経て現職。

総 会

214 教室

議長選出

1. 世話人の選出について
2. 平成28年度事業報告
3. 平成28年度会計報告
3. 平成29年度事業計画
4. 平成29年度予算
5. その他

研究発表一覧

研究発表① 214教室 座長：吉富功修、三村真弓

岐阜県古川小学校「ふしづくりの教育」の目指したもの―学校長・音楽科主任・全教職員の著書・研究報告書と証言よりの報告(1)―
中国学園大学元教授・太田正清

明治期の唱歌教育 とジェンダーの形成―女学生向け唱歌集の分析を中心として―
九州大学大学院・佐藤慶治

昭和期戦前における印牧季雄の児童舞踊教育論―『学校舞踊 理論より創作へ』を中心に―
広島大学大学院・戸江真以

大正・昭和初 期に学校・劇場で行われた学芸会から見るアウトリーチ活動の在り方
熊本大学・山崎浩隆

「ふしづくり の教育」の実践(2)―福岡県春日市泉ヶ丘幼稚園における実践 を中心に―
広島大学名誉教授・吉富功修
広島大学・三村真弓
福岡女学院大学・福島さやか

研究発表② 213教室 座長：山中文、城佳世

民俗芸能に内在するコミュニケーションの特質に着目した音楽授業実践について
大阪体育大学・石塚真子

子どもの興味・関心の高まりに沿った郷土の音楽の指導―民謡の学習における焦点化と一般化―
千葉市立柏台小学校・桶田加代

リズム教育における千葉躬治と上田友亀のリズムの捉え方―クーパーとマイヤーのリズム論に基づいて―
園田学園女子大学・門脇早穂子

我が国の伝統的な歌唱の指導に関する課題と提案―拍の捉え方に焦点をあてて―
目白大学・小林恭子
目白大学・武藤宏司

日本民謡学習の一提案―変容に視点をあてて―
九州女子大学・城 佳世

研究発表③ 212教室 座長：八木正一、松本晴子

音声合成ソフトによる「音楽づくり」の実践とその教育効果―音楽科におけるプログラミング学習も視野において―
つくば市立光輝学園葛城小学校・佐々木香織

「音色」を指導内容とした図形楽譜づくりによる鑑賞領域の実践研究—中等教育学校音楽科における《魔王》の鑑賞を通して—
奈良女子大学附属中等教育学校・多賀秀紀

音楽科授業構成に関する一考察—和声に着目して—
広島大学大学院・辻 勇介

マリンバを素材とした「音楽づくり」の実践的研究—グループ学習によるマリンバアンサンブルの「音楽づくり」を通して—
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校・徳田典子

次期学習指導要領中学校音楽科 A 表現(1)アに注目した歌唱表現の授業作りの一案—歌唱の「創意工夫」を目指して—
錦江町立錦江中学校、南大隅町立根占中学校・水谷いつみ

研究発表④ **211教室** 座長: 三戸誠、小池順子

算数科で活用される音楽教材についての一考察—日本で使用されているかけ算九九の歌や音楽活動を中心に—
早稲田大学大学院・池田康子

音楽鑑賞教室における楽器紹介の意義—音色の学び—
国立音楽大学・三戸誠

カタルーニャの初等教育における音楽とダンス音楽の感受と身体表現に関するインタビュー調査
広島大学大学院・FERRAN GALICIA JOSEP

イギリスの音楽教育における指導の動向—新ナショナルカリキュラムとの関連から—
東京学芸大学・森尻有貴

研究発表⑤ **210教室** 座長: 吉永早苗、高見仁志

C.フレッシュのヴァイオリン奏法の特徴—「芸術的演奏」を中心として—
広島大学・高旗健次

絵譜の源流をたどる—Grügerドイツ歌曲集の日本への受容—
湊川短期大・白井奈緒
佛教大学・高見仁志

ピアノ演奏の音楽的表現力向上における実践—声を出して「歌う」という学習を取り入れて—
目白大学・前田菜月

サウンドエデュケーションが大学生の聴力および音楽聴取に及ぼす影響について
岡山県立大学・吉永早苗

ピアノのコード伴奏学習における反転授業の導入—2016年度後期授業における質問紙調査結果の検討を中心に—
宮崎大学・酒井勇也